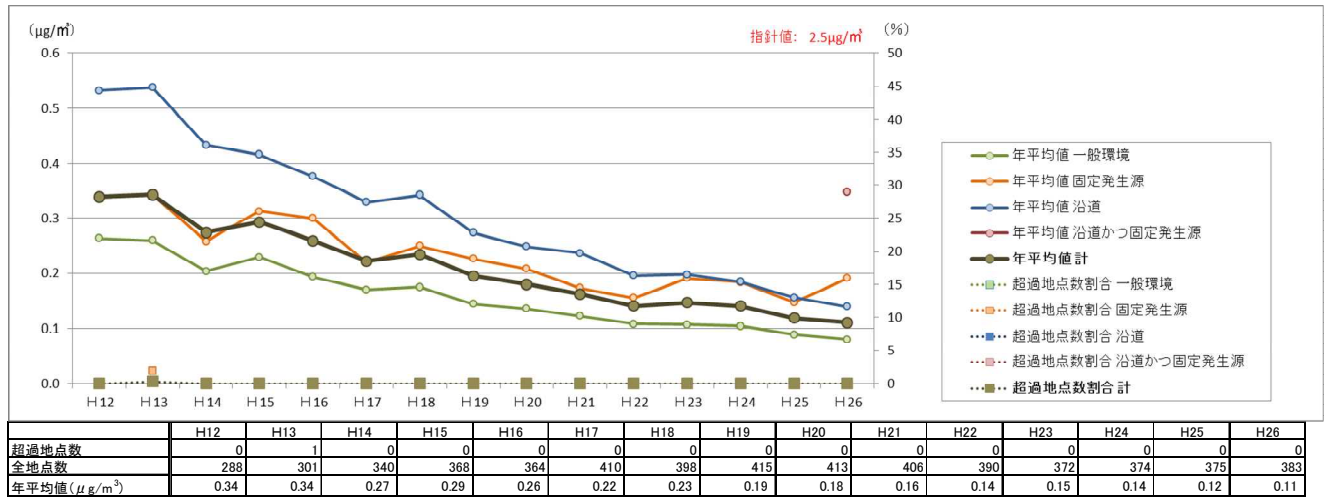


＜1,3-ブタジエン＞



＜マンガン及びその化合物＞

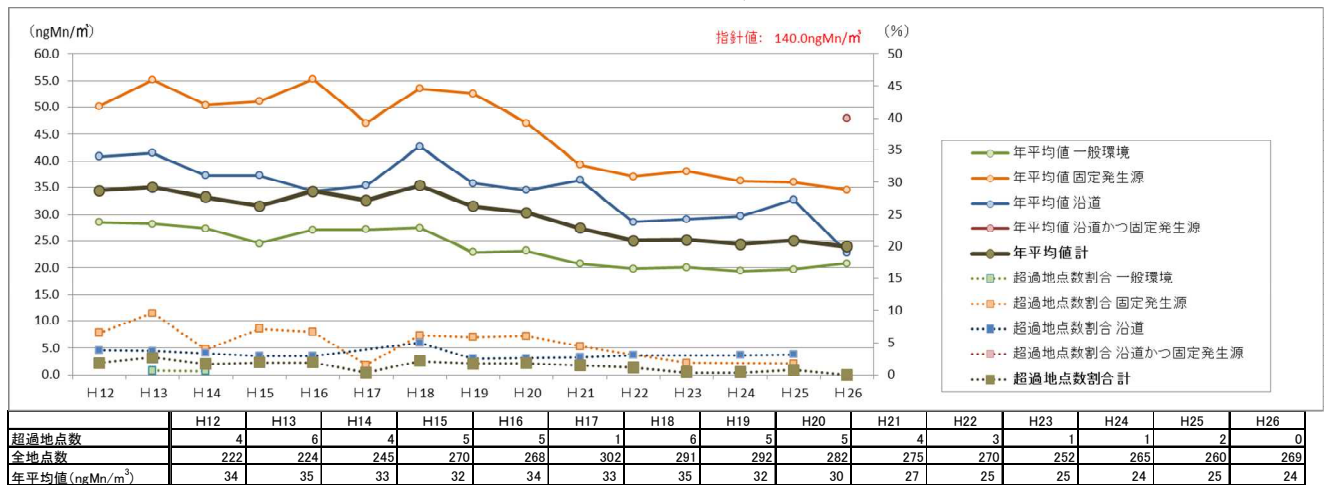
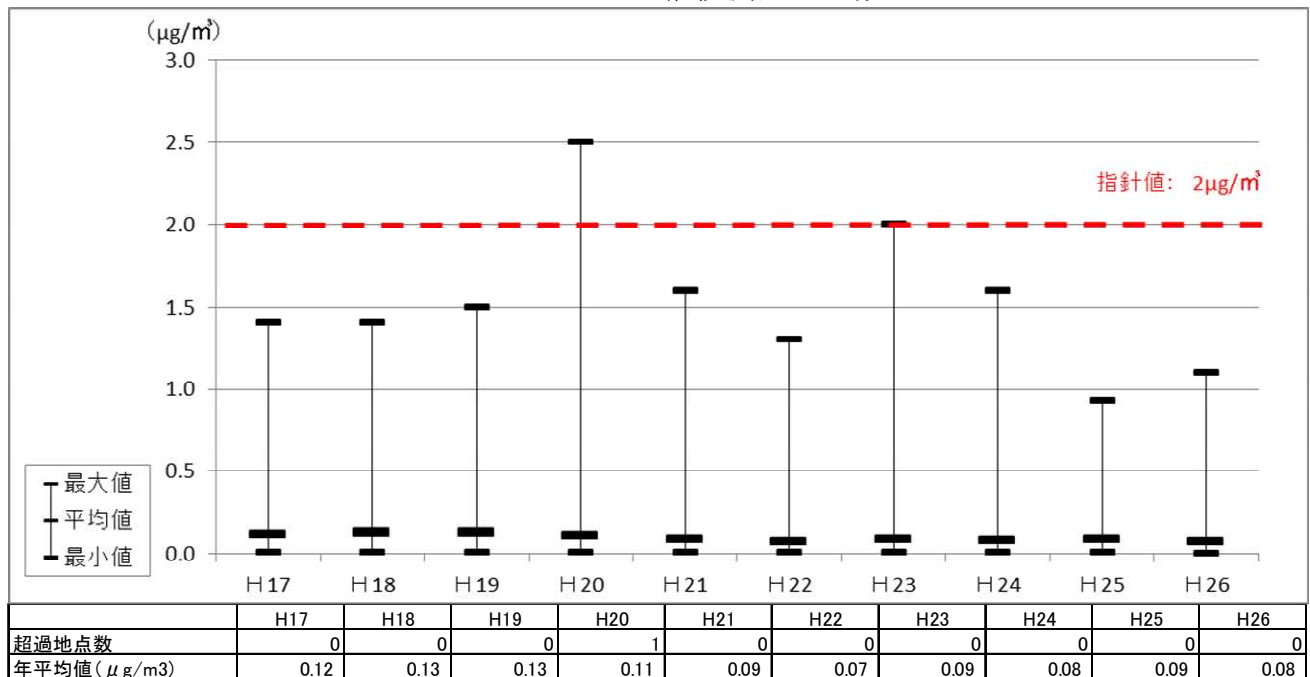
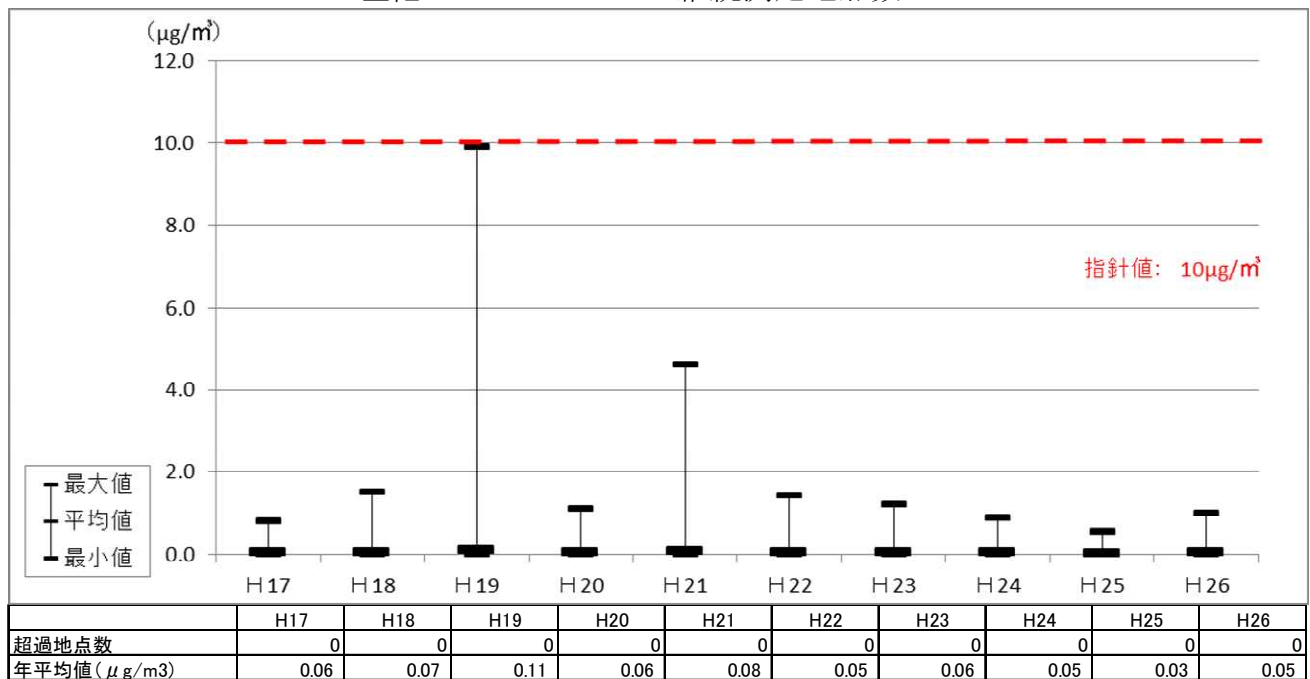


図 11 継続測定地点における年平均値の推移

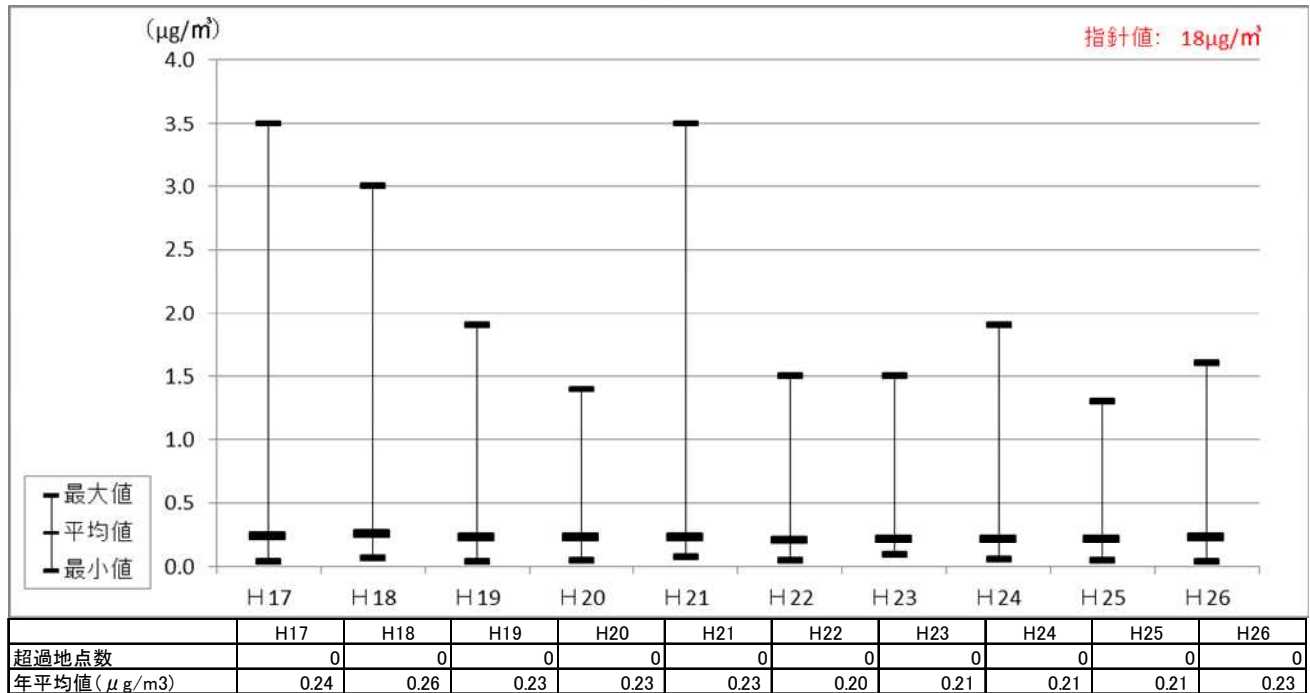
<アクリロニトリル：継続測定地点数 184>



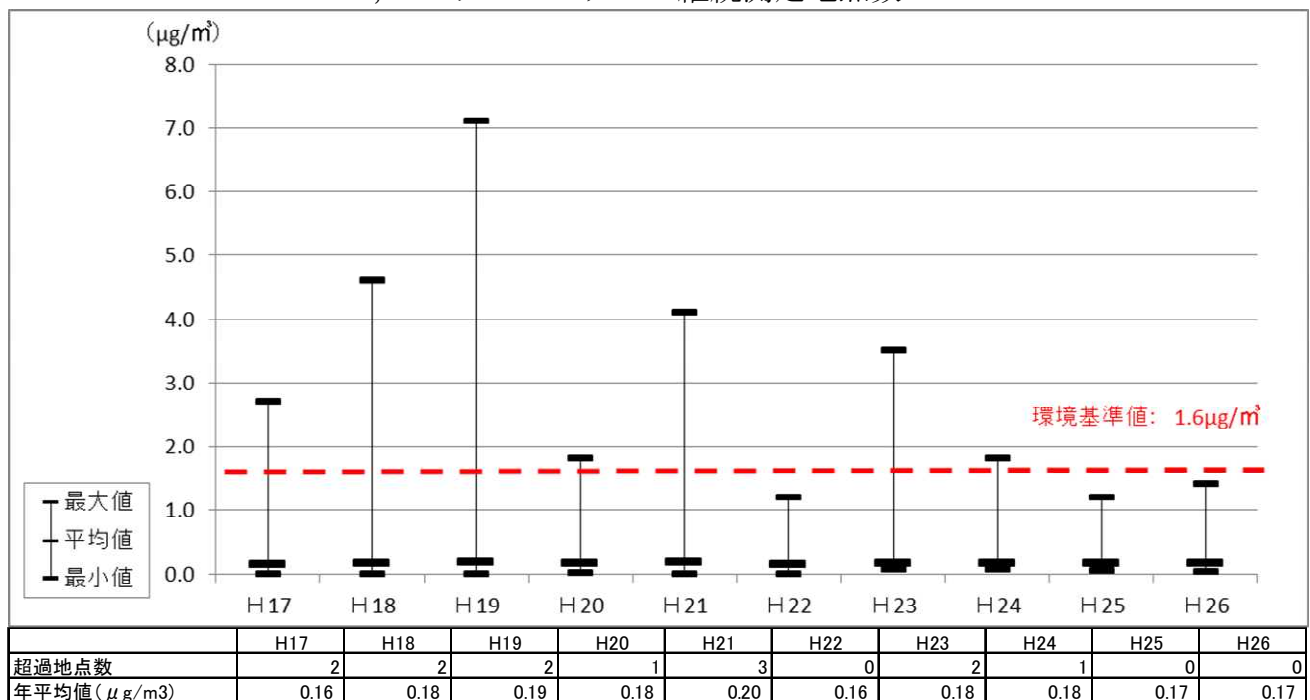
<塩化ビニルモノマー：継続測定地点数 182>



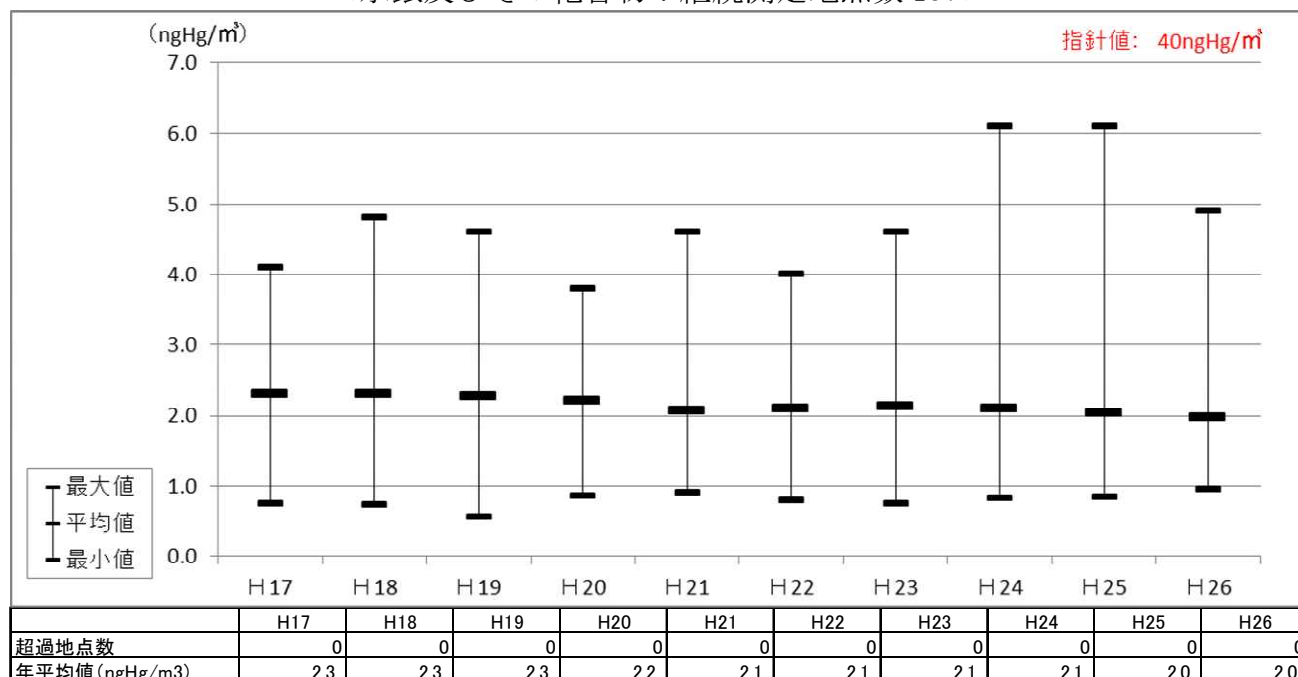
<クロロホルム：継続測定地点数 180>



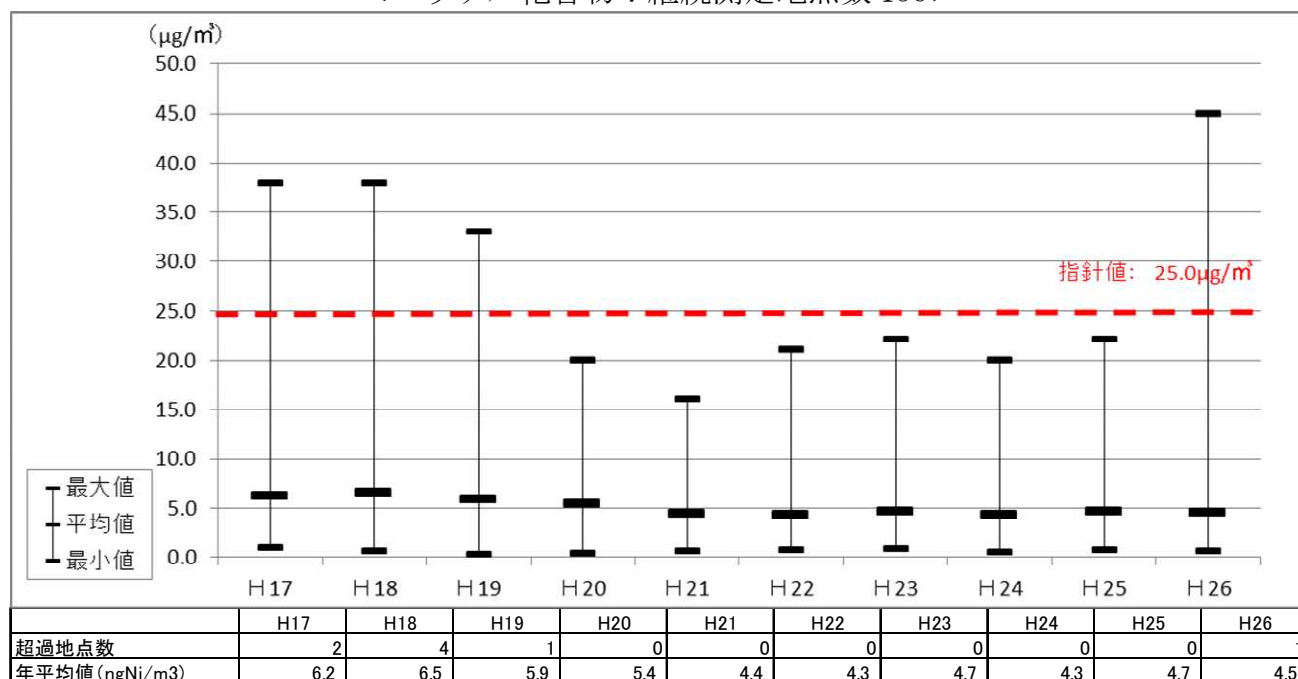
<1,2-ジクロロエタン：継続測定地点数 193>



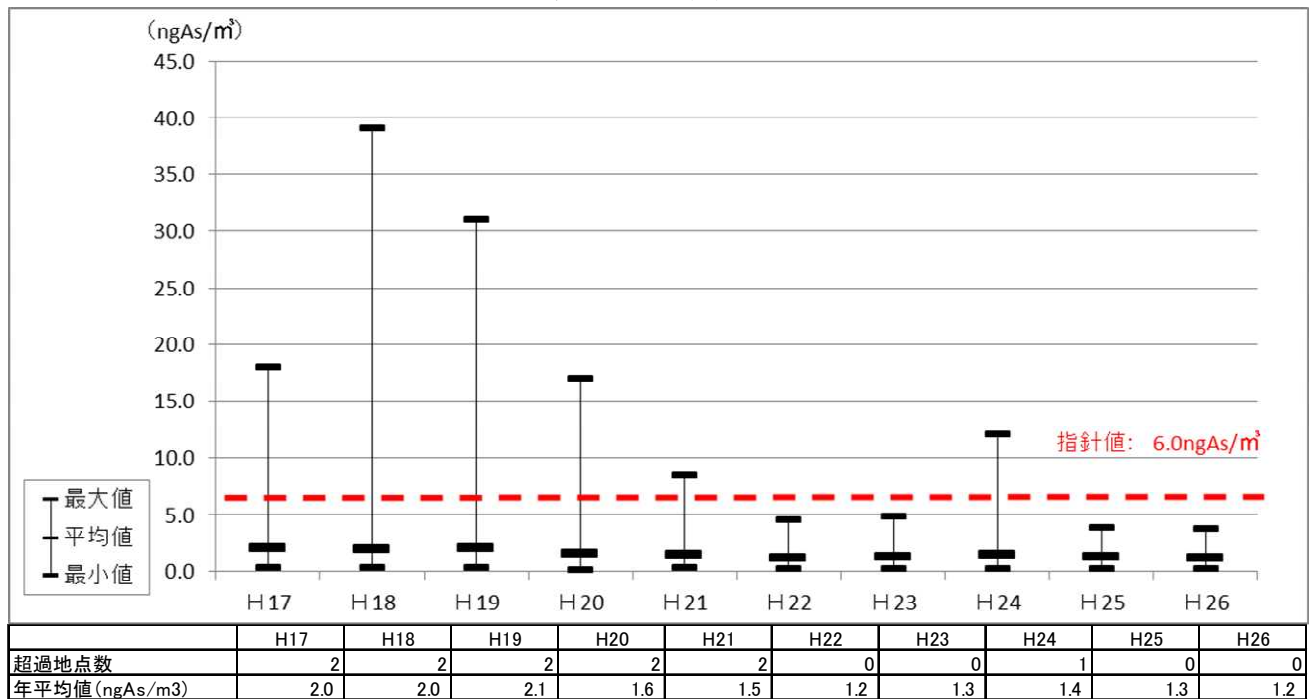
<水銀及びその化合物：継続測定地点数 157>



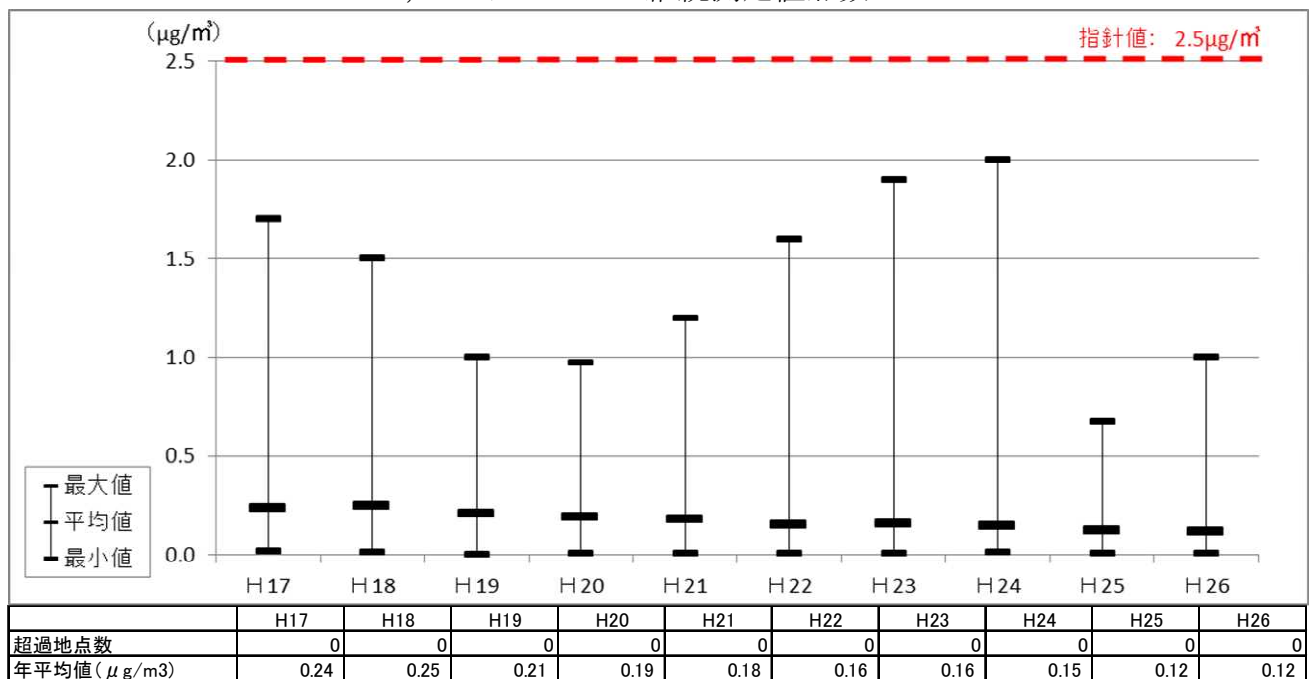
<ニッケル化合物：継続測定地点数 156>



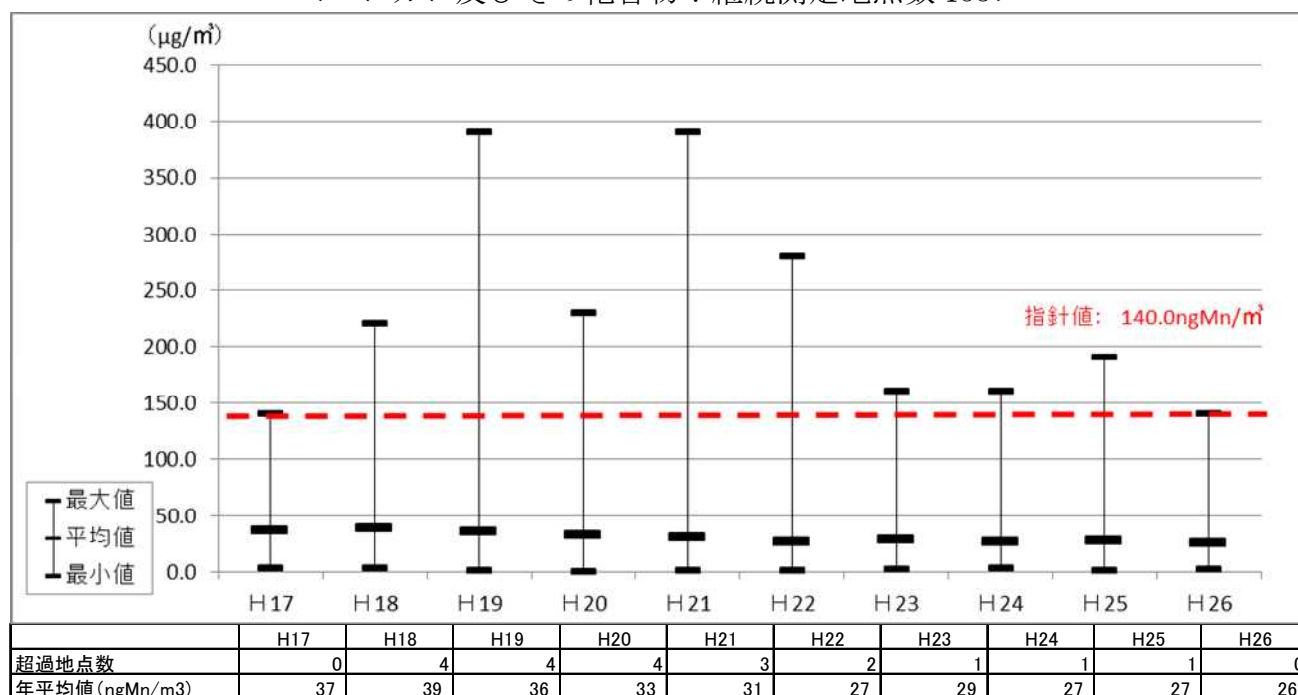
<ヒ素及びその化合物：継続測定地点数 159>



<1,3-ブタジエン：継続測定値点数 212>



＜マンガン及びその化合物：継続測定地点数 153＞



(3) 環境基準等が設定されていないその他の有害大気汚染物質

環境基準や指針値のないアセトアルデヒド等の8物質の平成26年度の濃度は図12のとおりである。

また、処理基準の改正に伴う測定地点の属性の変化により、固定発生源周辺の測定地点数が前年度に比べてアセトアルデヒドは56から26、塩化メチルは73から40、クロム及びその化合物は56から39、酸化エチレンは44から21、トルエンは79から63、ベリリウム及びその化合物は51から20、ベンゾ[a]ピレンは53から23、ホルムアルデヒドは57から30に減少し、低濃度域の一般環境測定地点数が増加した。処理基準の改正前後の調査結果は図13のとおりである。

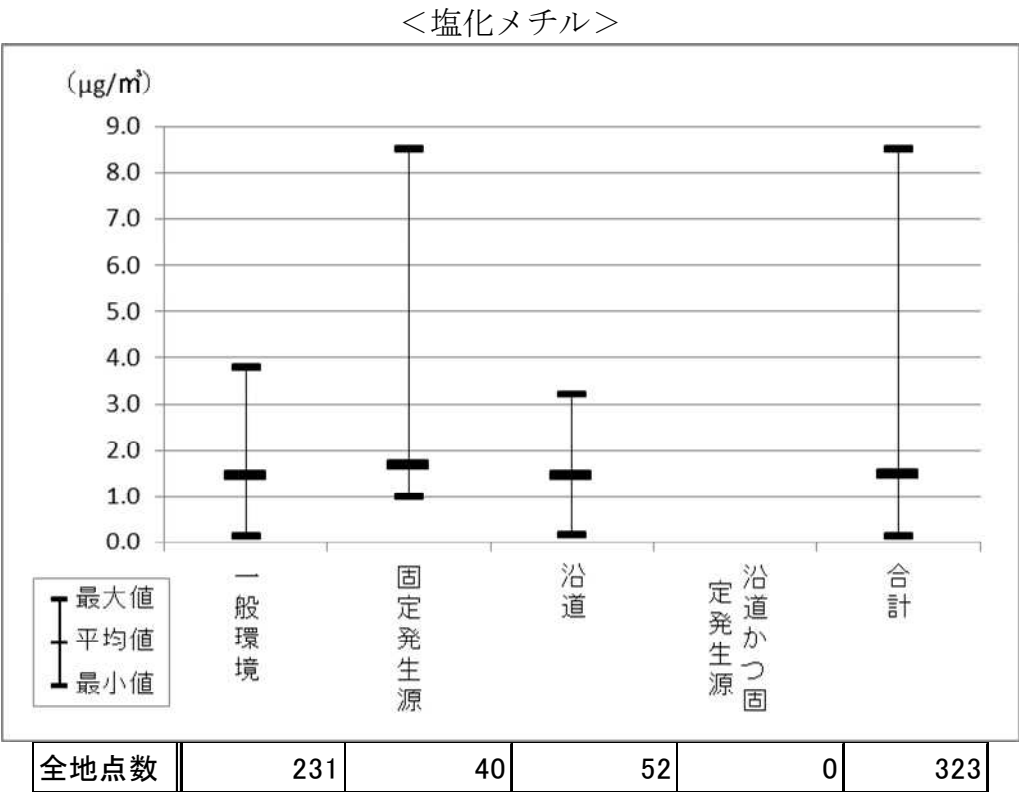
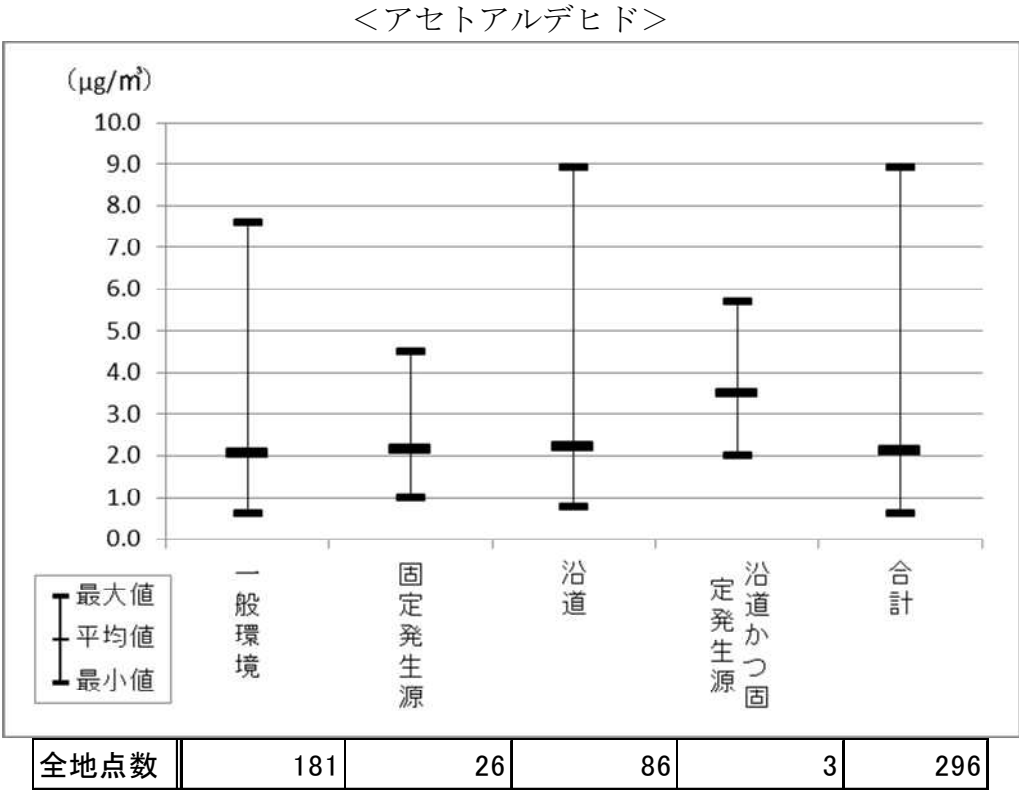
平成10年度からの年平均値の推移は図14のとおりである。

さらに、これらの物質のうち、継続測定地点のある6物質について、その地点における年平均値の推移は図15のとおりである。前年度と比較すると、塩化メチル、クロム及びその化合物は増加しており、その他6物質は横ばい又は低下していた。

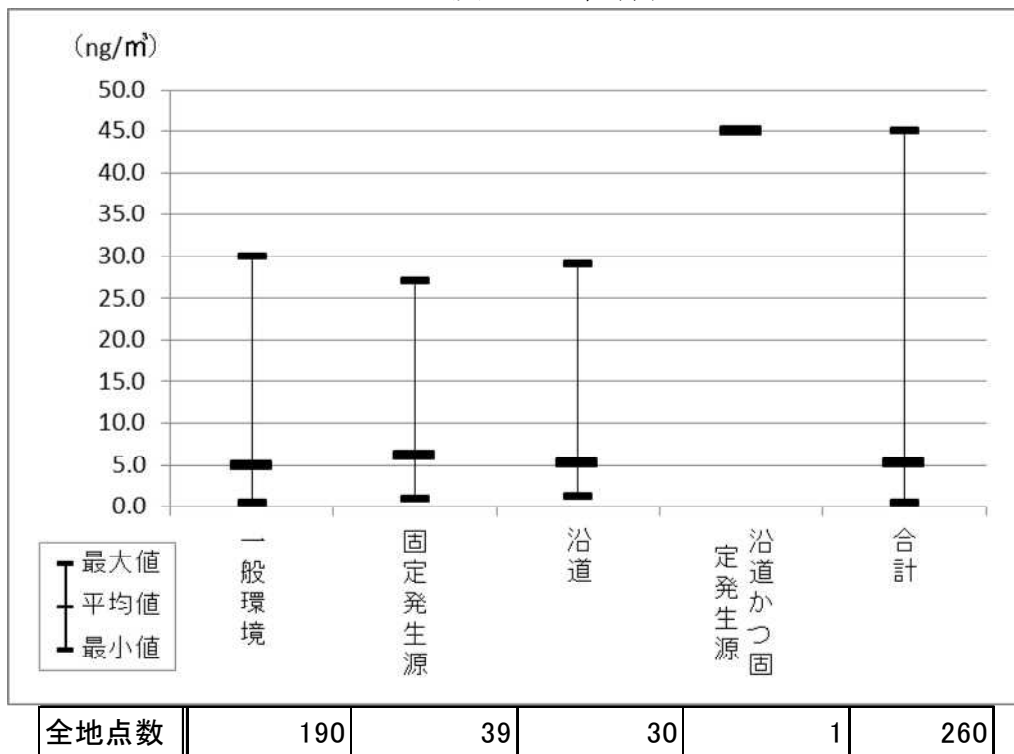
また、地点属性的に見ると、近年、酸化エチレンは沿道での濃度は一般環境と同程度になっているが、固定発生源周辺については一般環境より高い傾向にある。その他7物質については、地点属性による影響がなくなっているが、クロム及びその化合物は沿道と固定発生源周辺で、ベンゾ[a]ピレンは固定発生源周辺で、ホルムアルデヒドは沿道で、一般環境に比べて高い傾向にある。

経年的に見ると、アセトアルデヒド、クロム及びその化合物、ベリリウム及びその化合物、ベンゾ[a]ピレン、ホルムアルデヒドはゆるやかな低下傾向、塩化メチル、酸化エチレン、トルエンはほぼ横ばいであった。

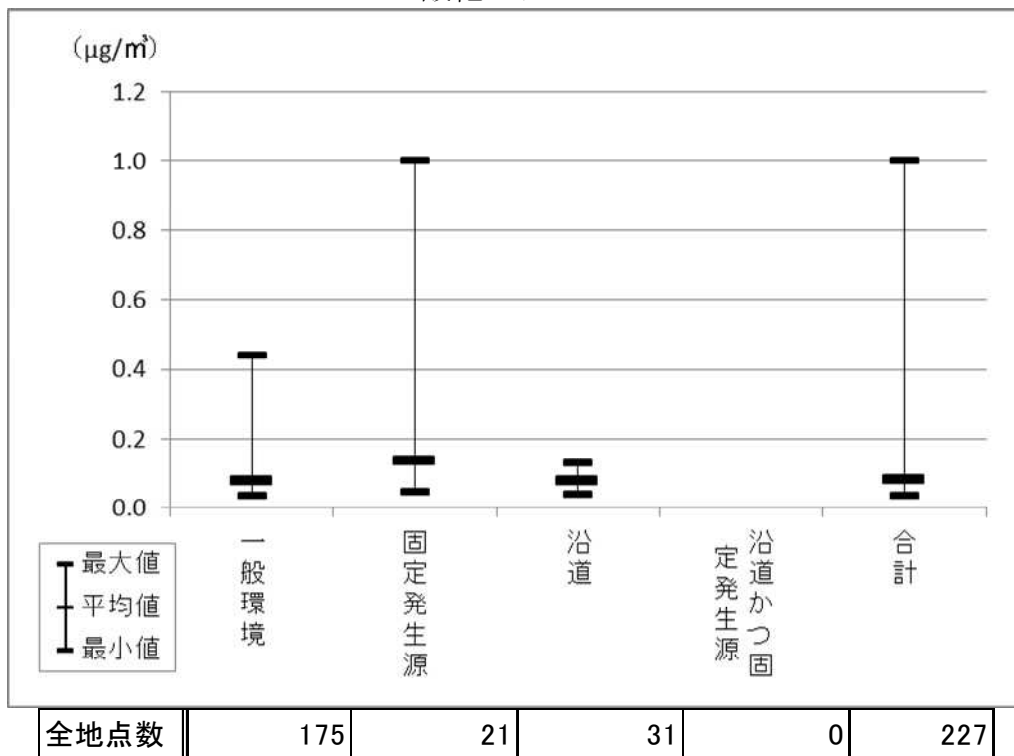
図 12 平成 26 年度のその他の有害大気汚染物質モニタリング調査結果の概要



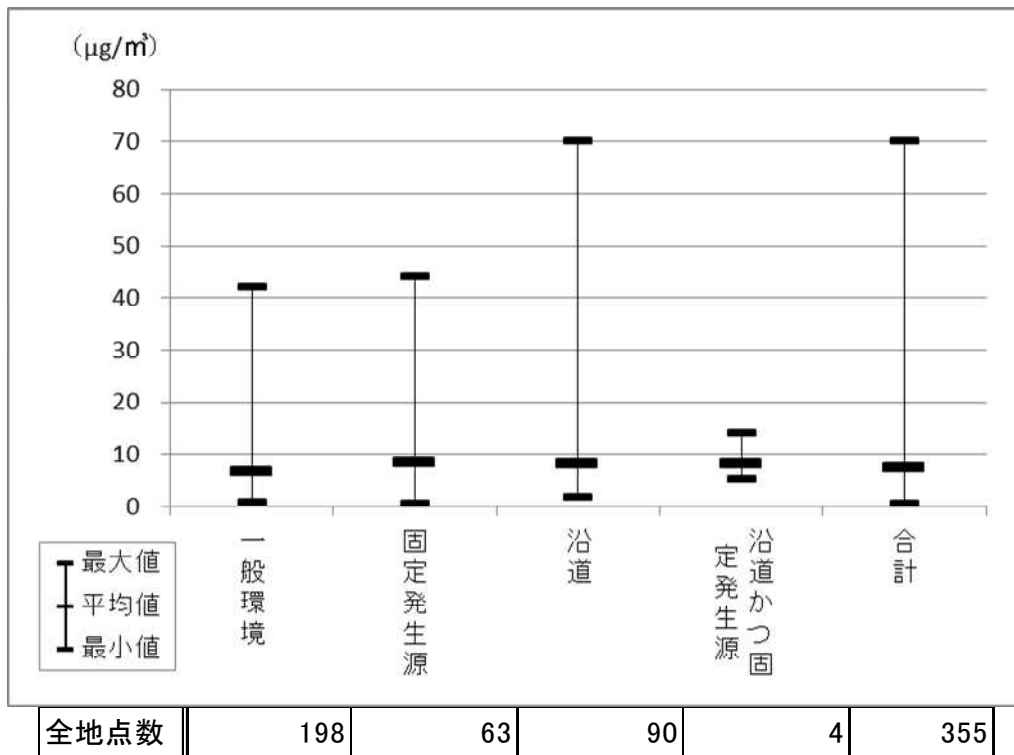
<クロム及びその化合物>



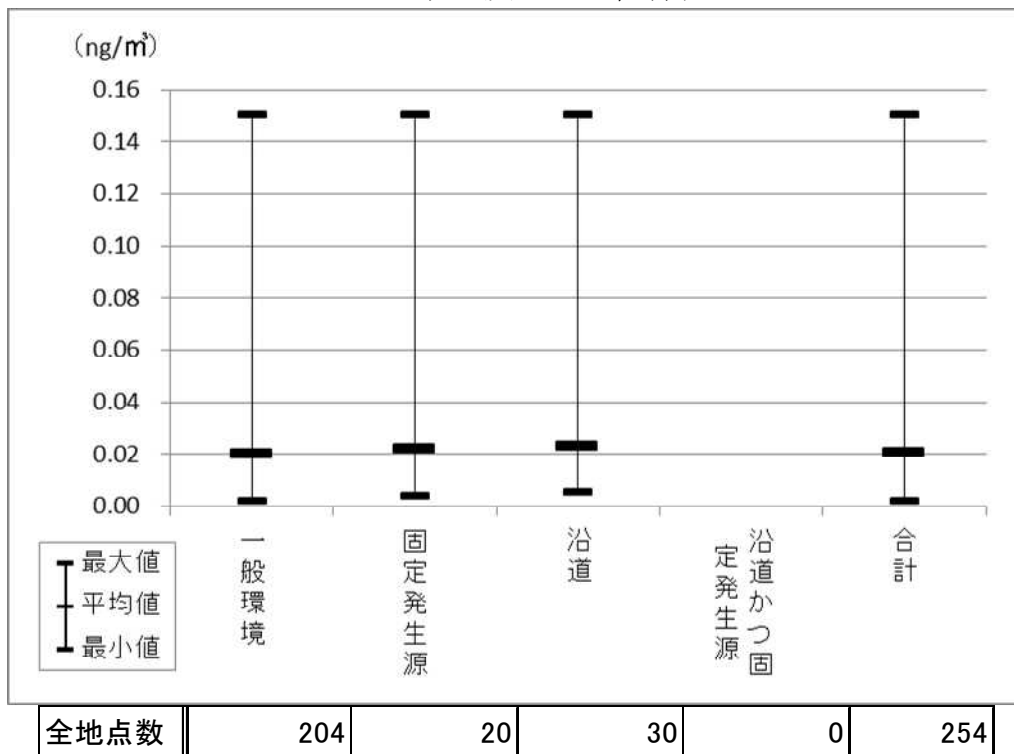
<酸化エチレン>



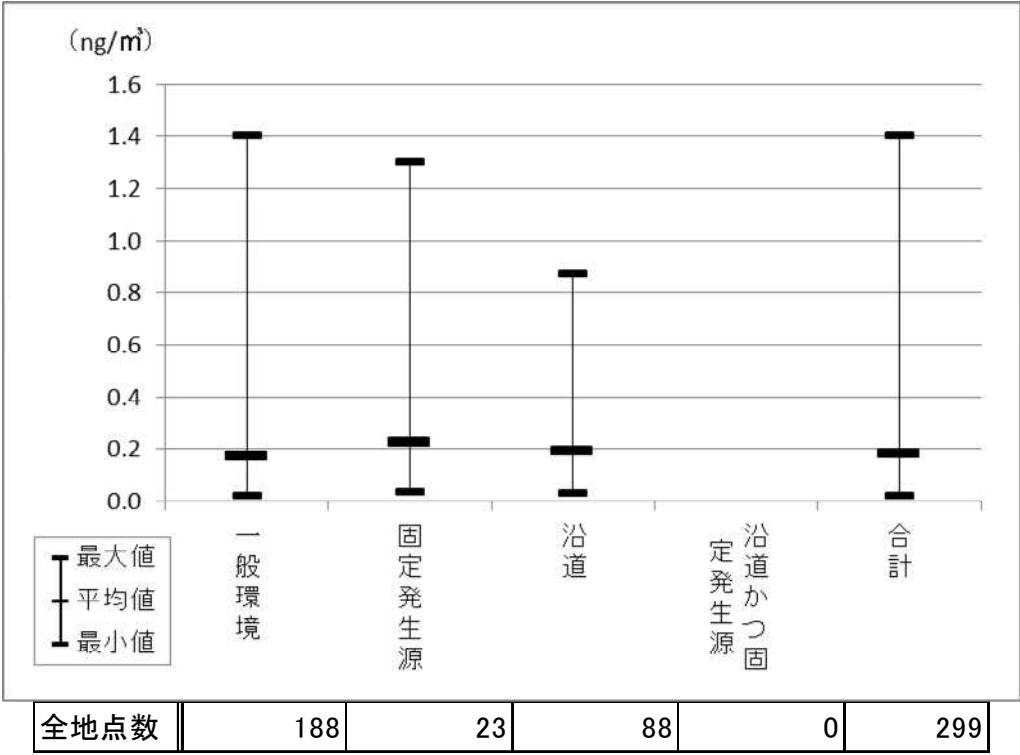
<トルエン>



<ベリリウム及びその化合物>



<ベンゾ[a]ピレン>



<ホルムアルデヒド>

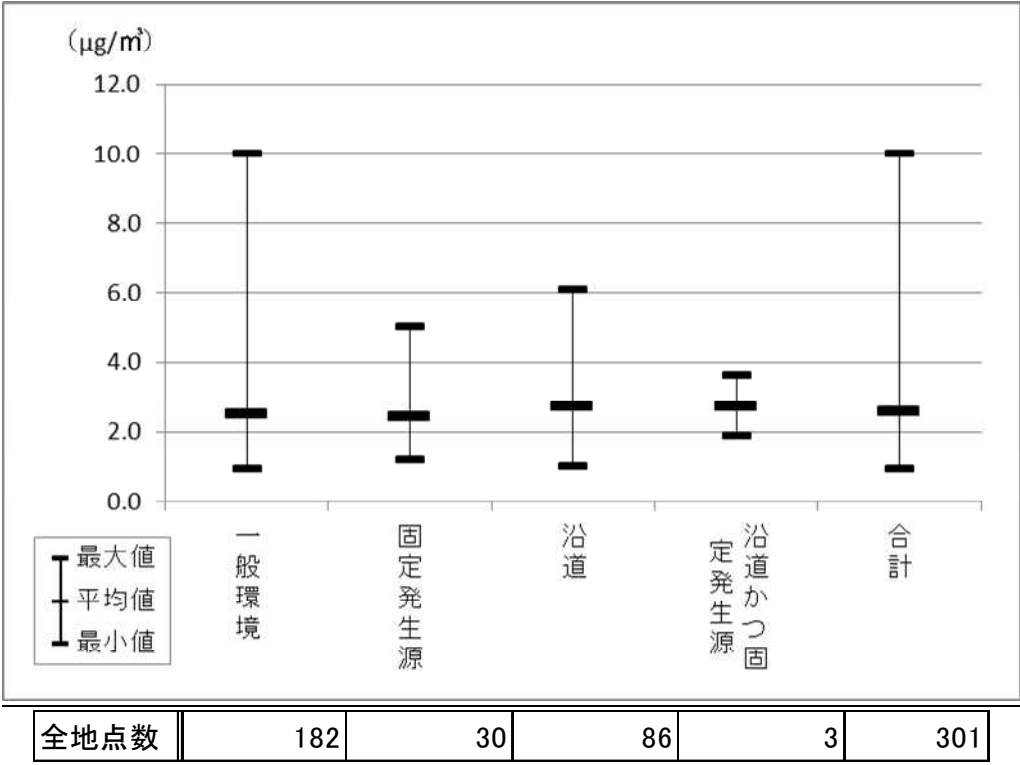
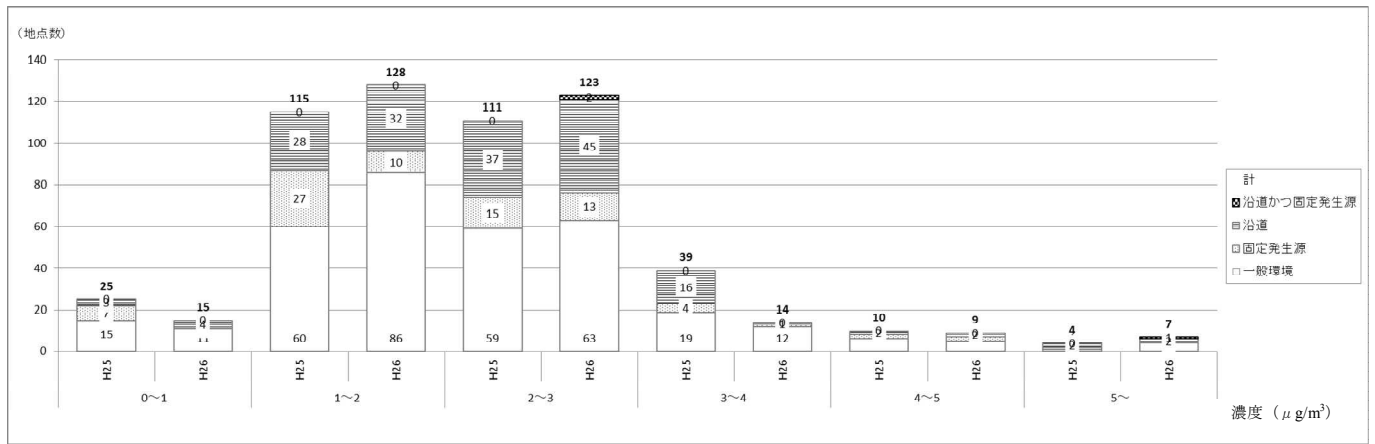
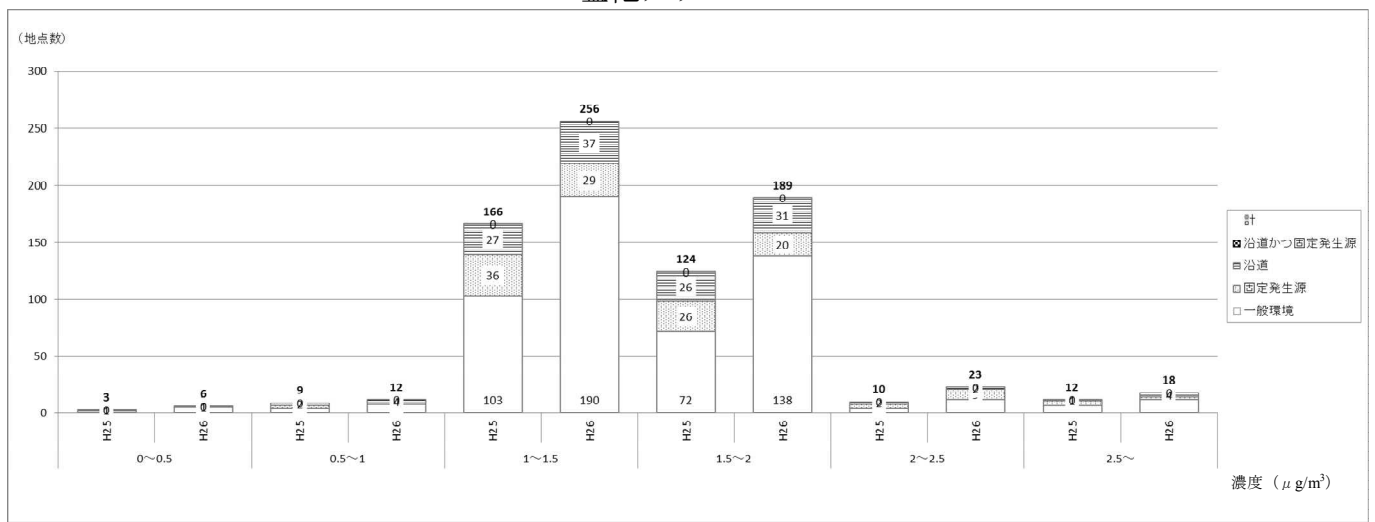


図 13 平成 25 年度と平成 26 年度のその他の有害大気汚染物質モニタリング
調査結果の比較

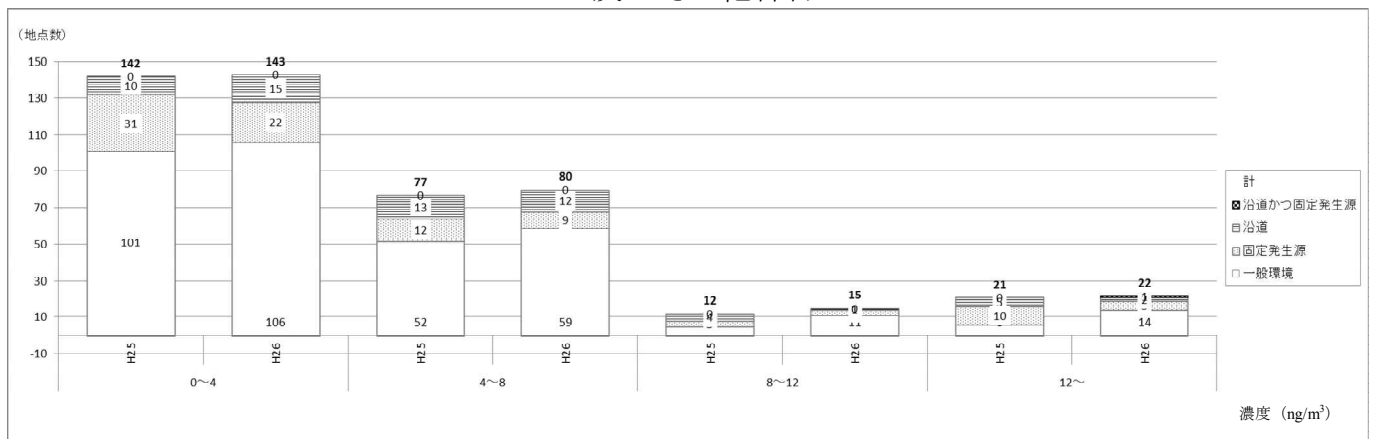
<アセトアルデヒド>



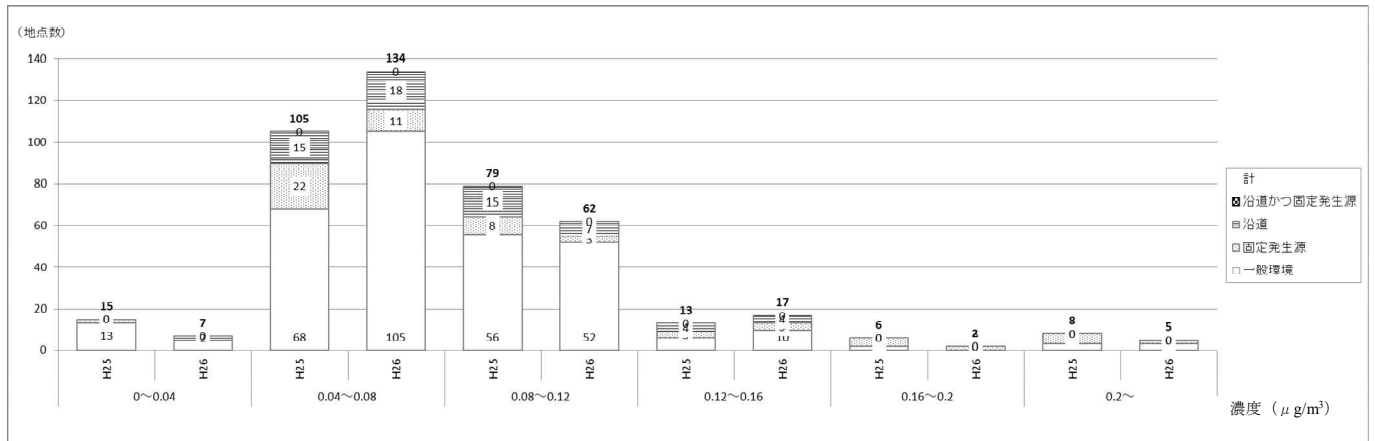
<塩化メチル>



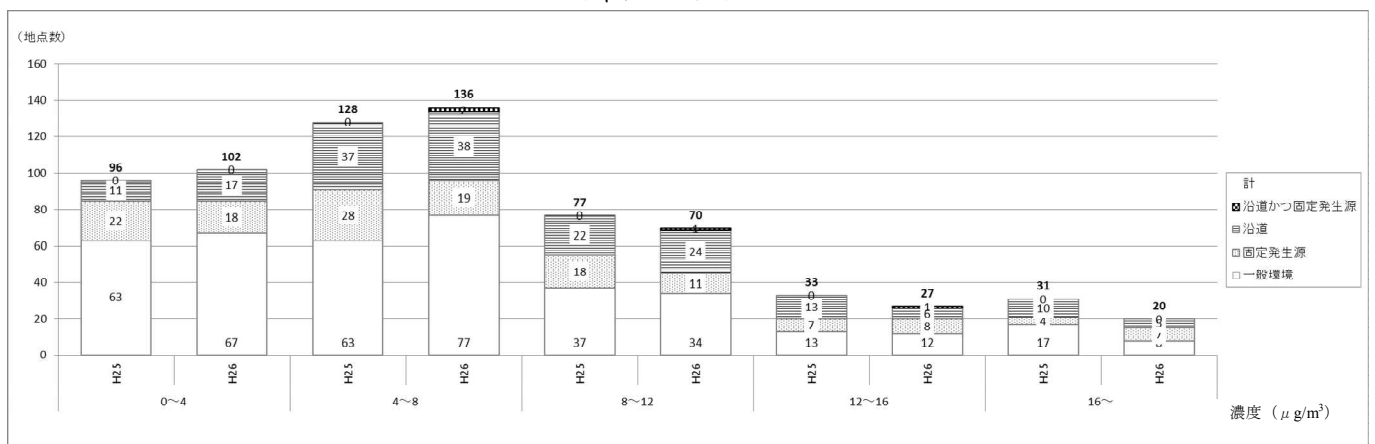
<クロム及びその化合物>



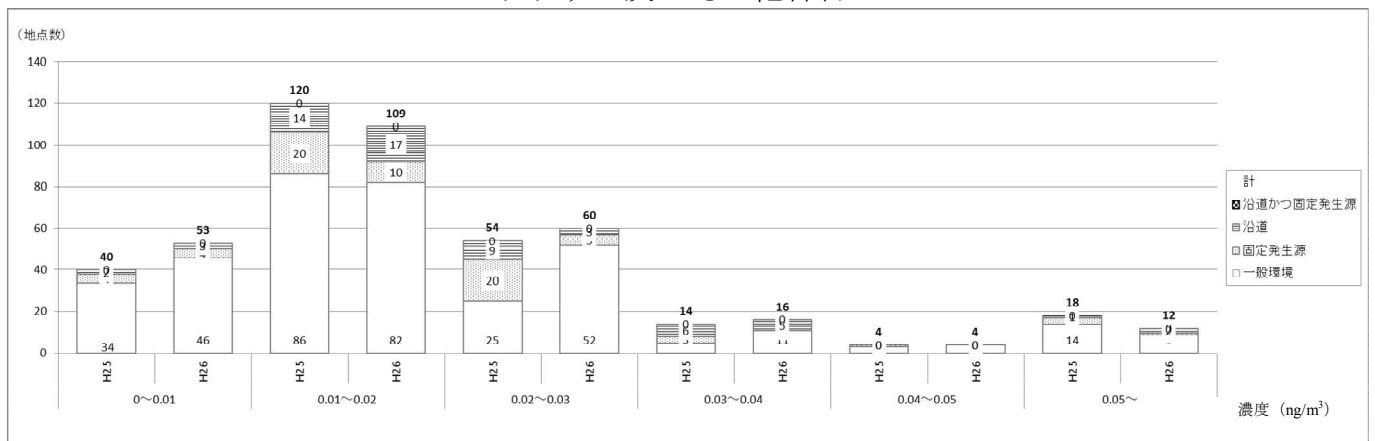
<酸化エチレン>



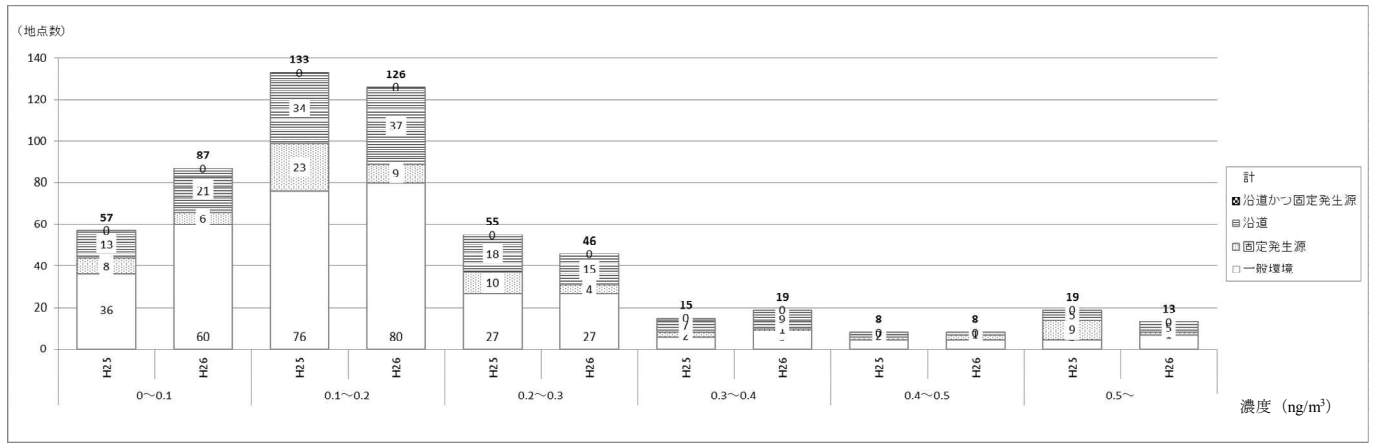
<トルエン>



<ベリリウム及びその化合物>



<ベンゾ[a]ピレン>



<ホルムアルデヒド>

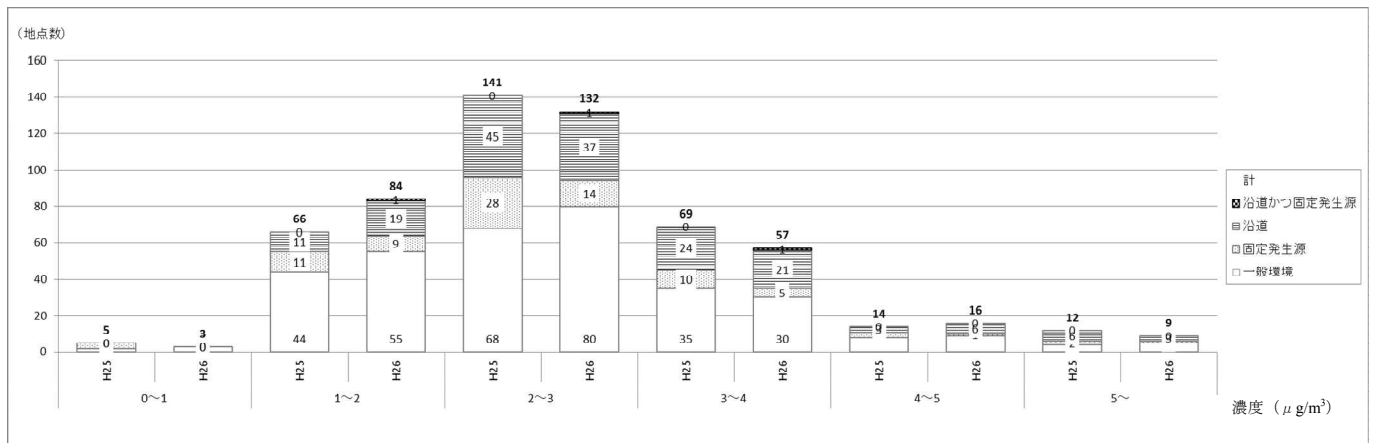
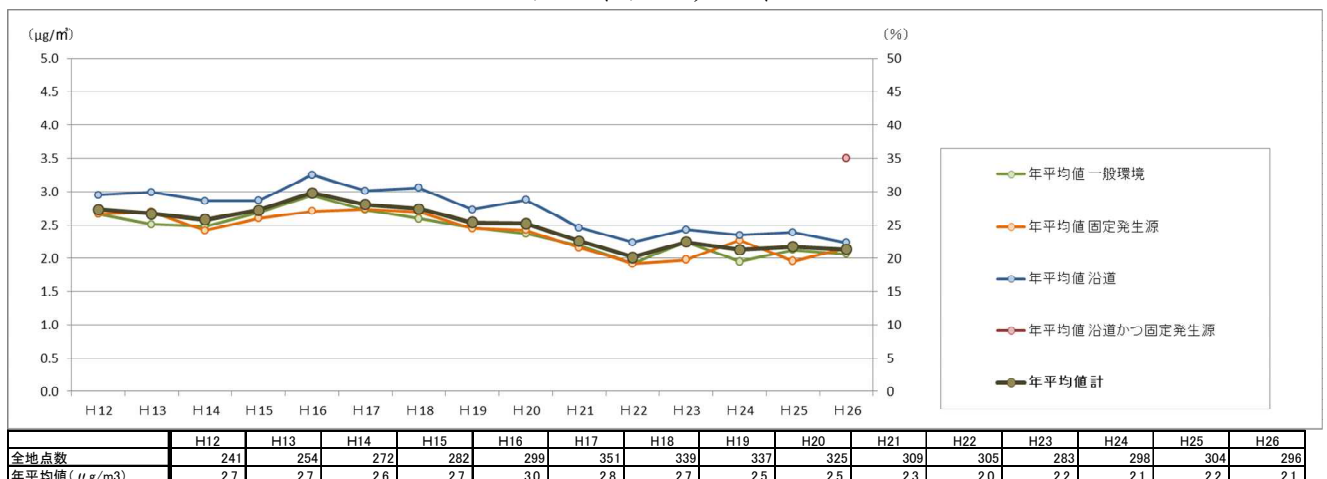
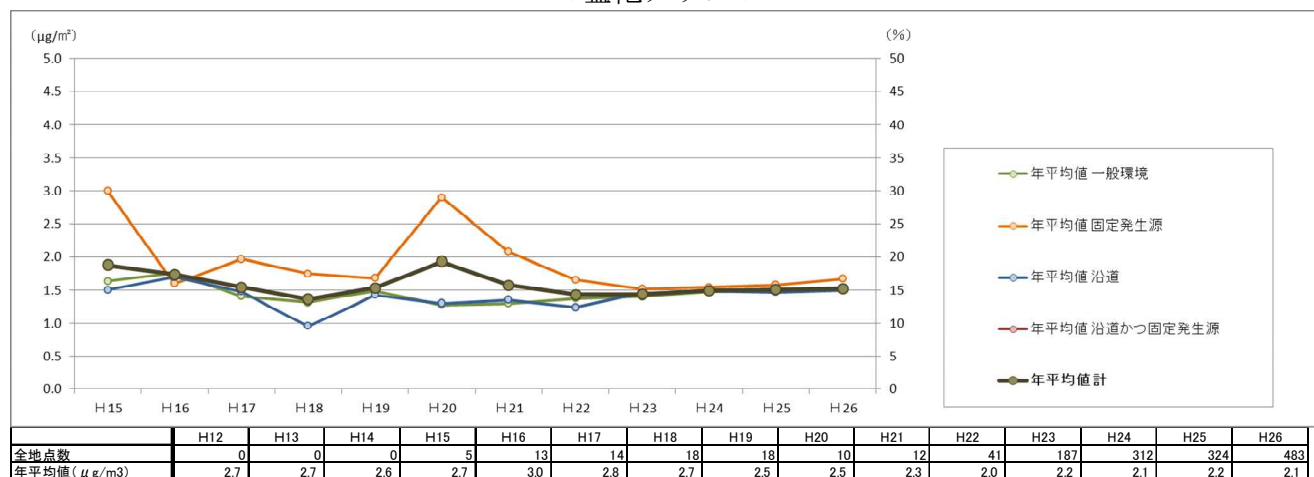


図 11 平成 26 年度アセトアルデヒド、塩化メチル、クロム及びその化合物、酸化エチレン、トルエン、ベリリウム及びその化合物、ベンゾ[a]ピレン、ホルムアルデヒドの年平均値の推移

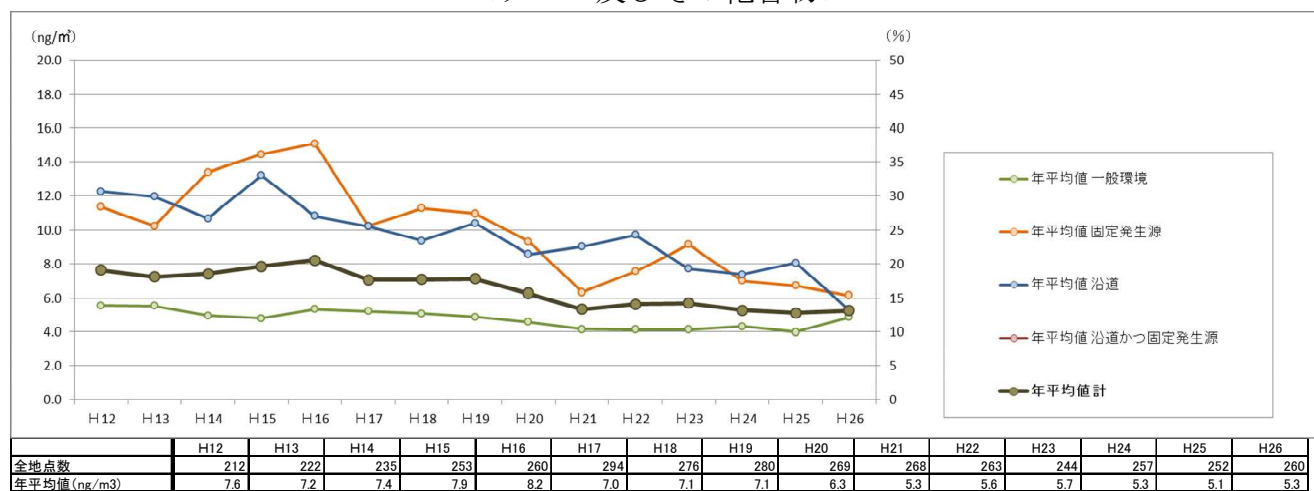
<アセトアルデヒド>



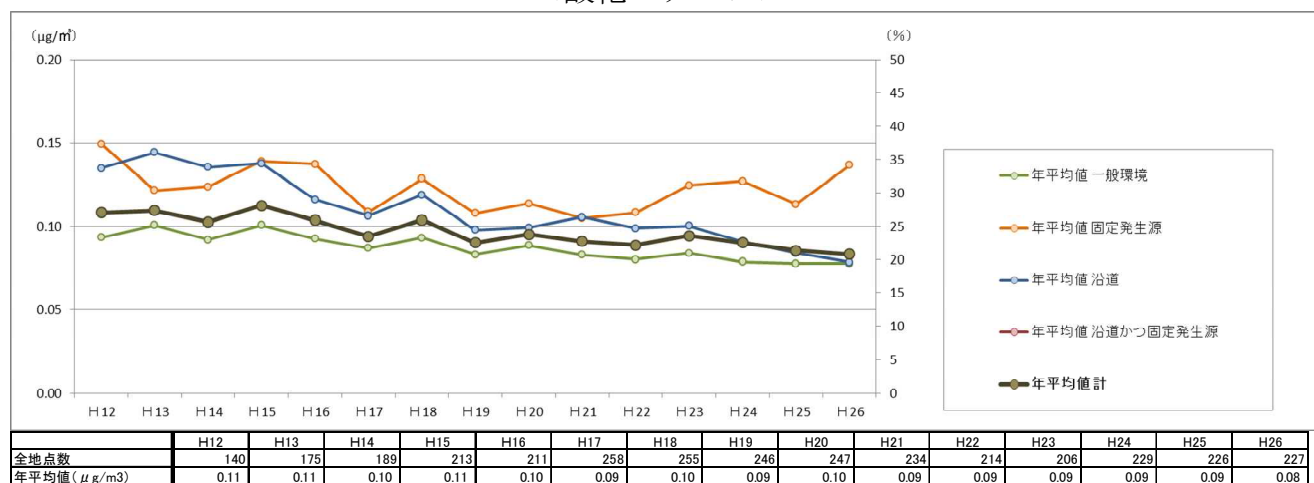
＜塩化メチル＞



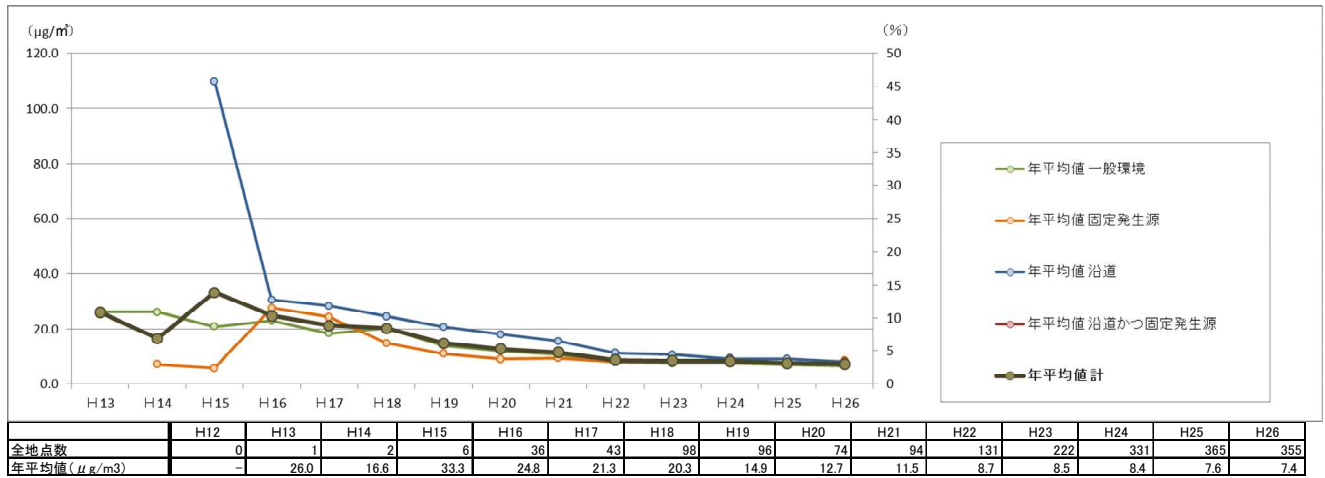
＜クロム及びその化合物＞



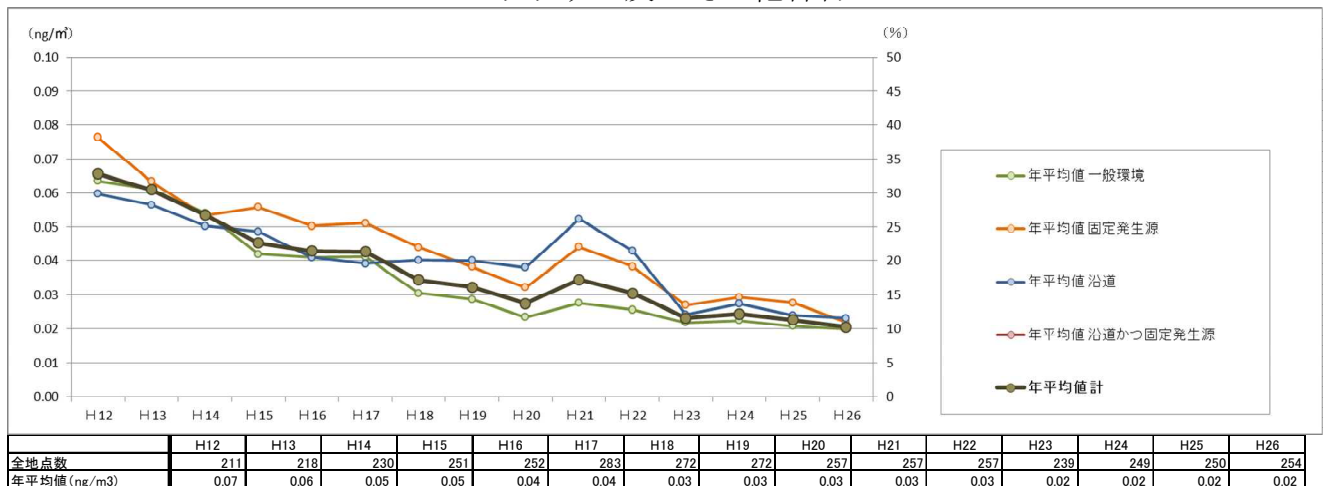
＜酸化エチレン＞



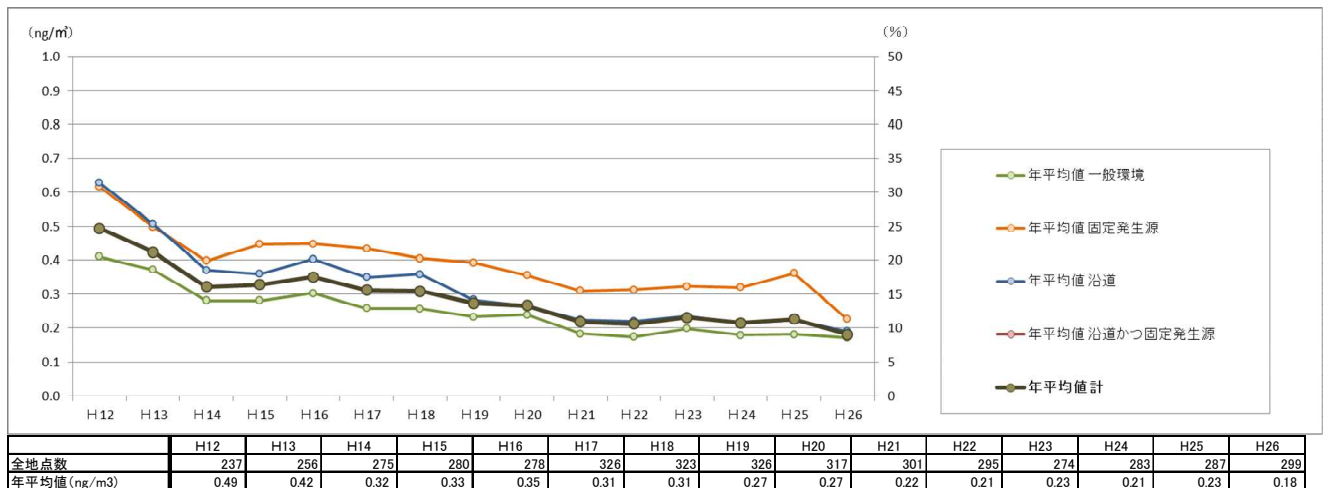
＜トルエン＞



＜ベリリウム及びその化合物＞



＜ベンゾ[a]ピレン＞



＜ホルムアルデヒド＞

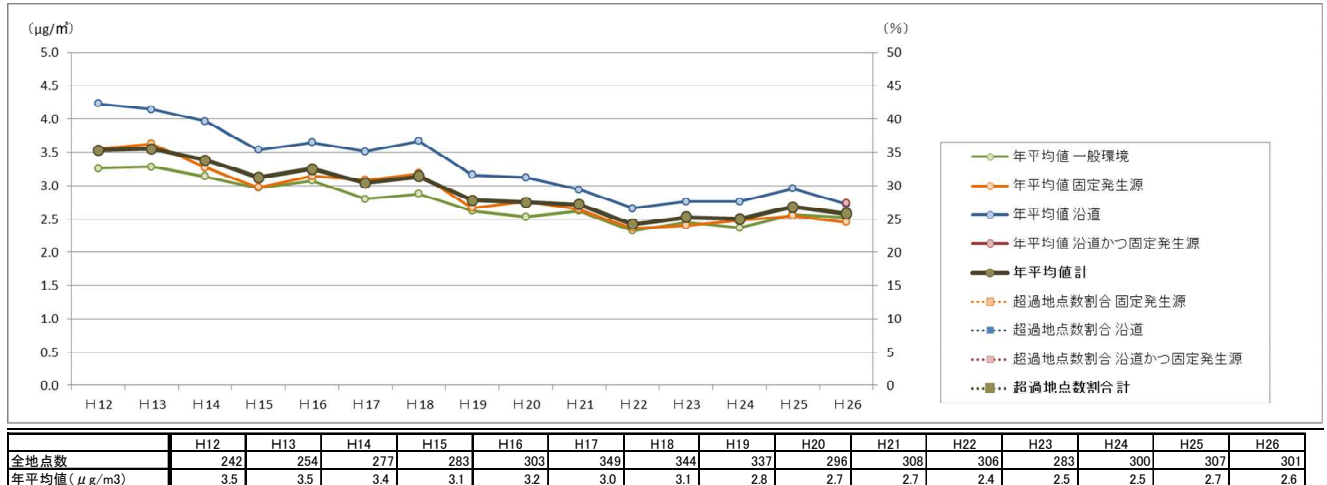
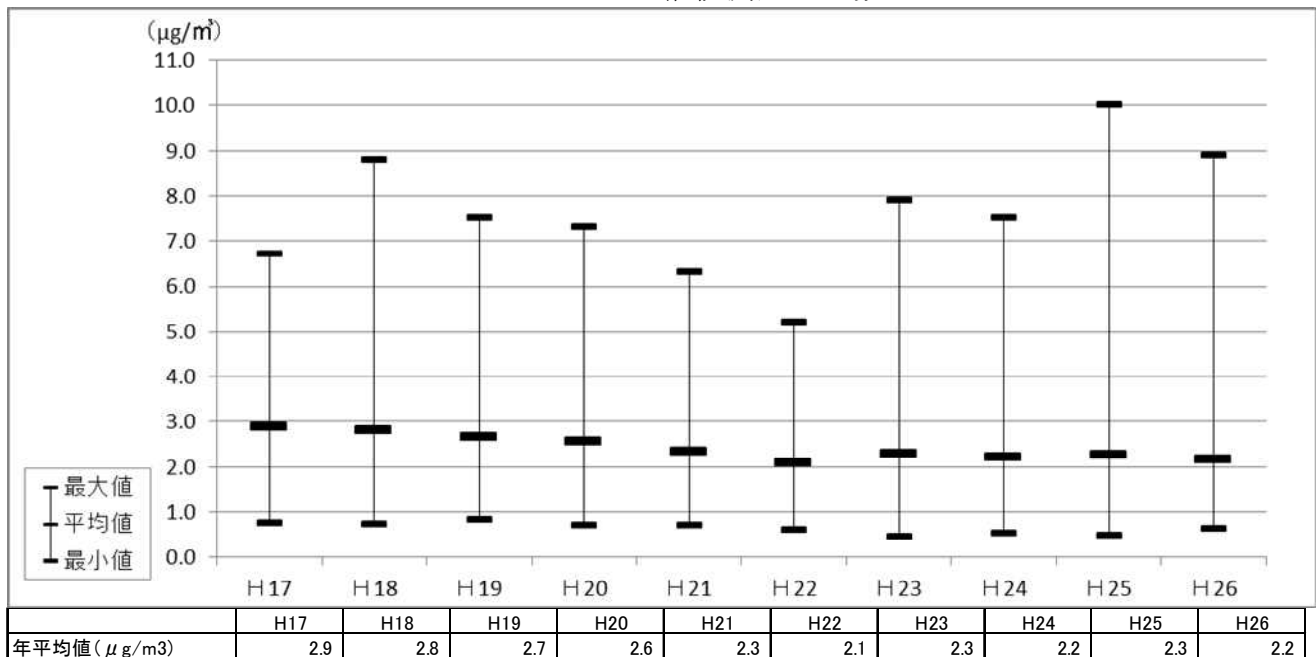
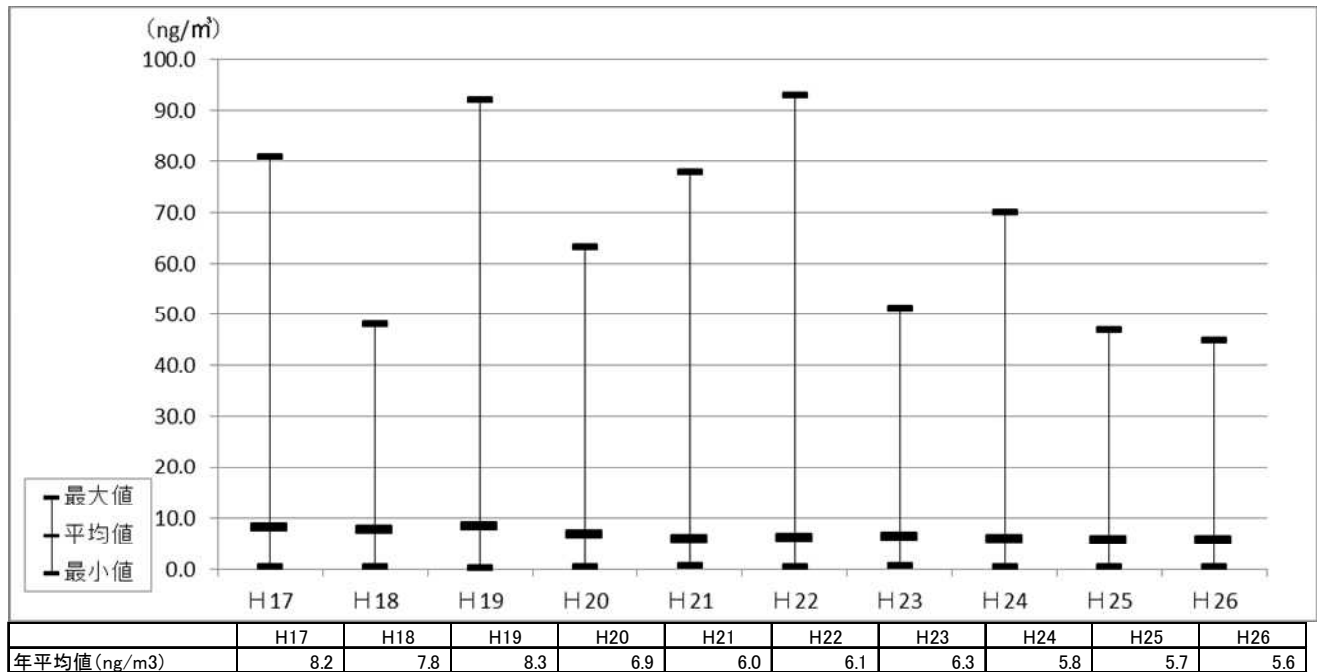


図 12 継続測定地点における年平均値の推移

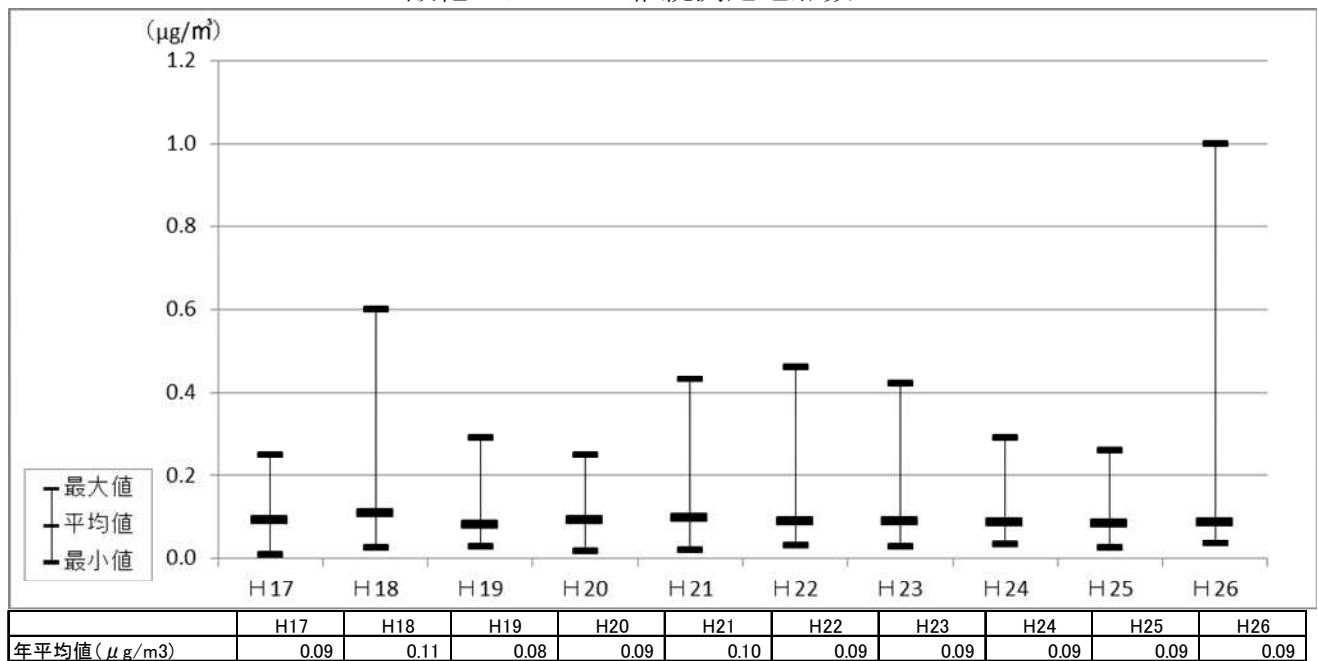
＜アセトアルデヒド：継続測定地点数 167＞



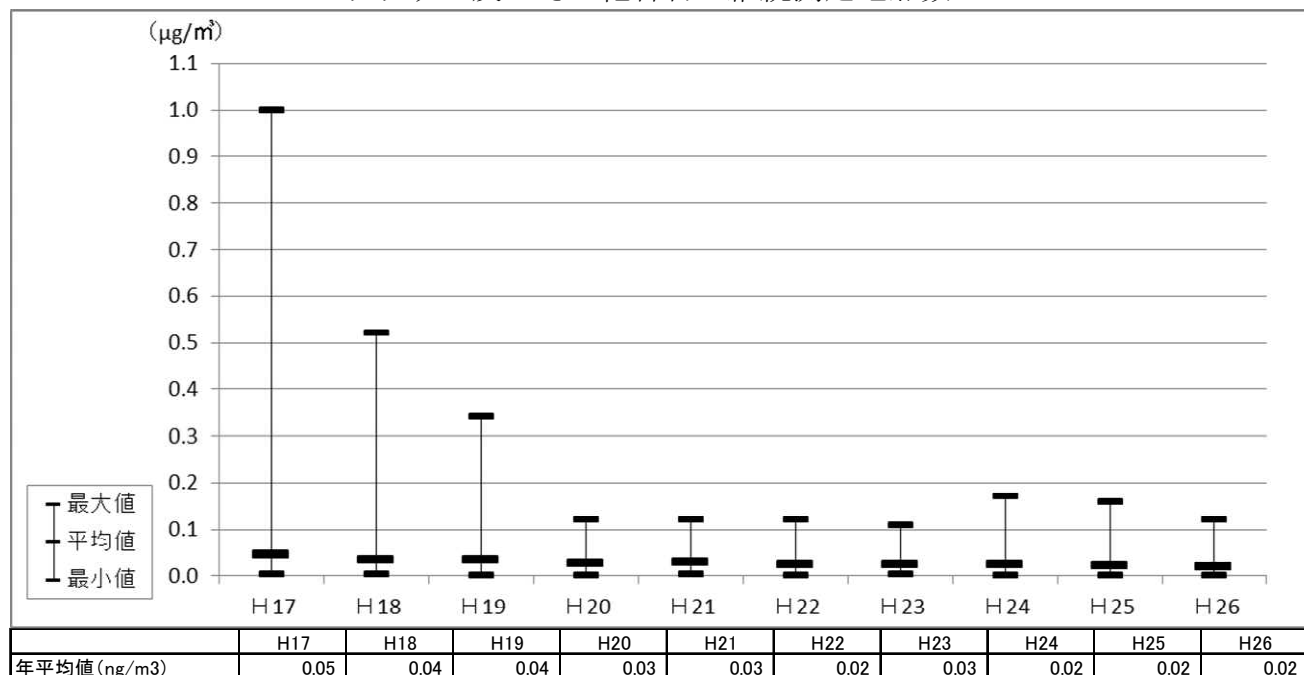
＜クロム及びその化合物：継続測定地点数 141＞



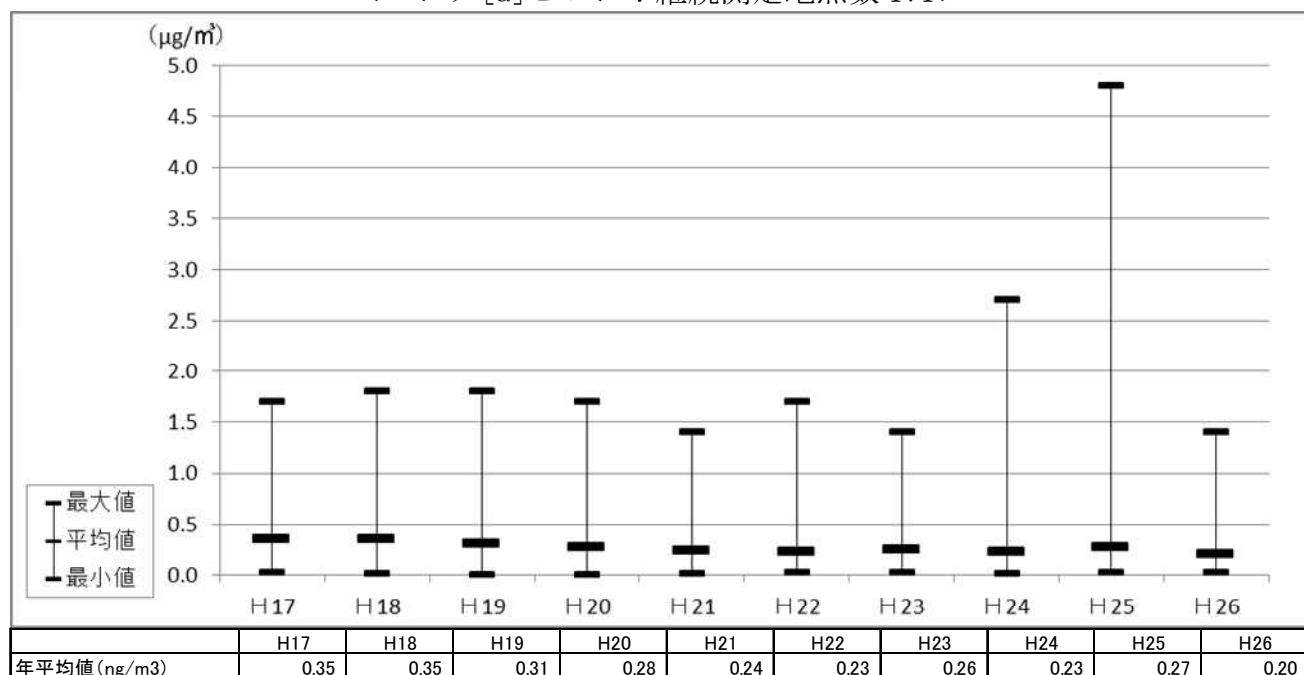
＜酸化エチレン：継続測定地点数 122＞



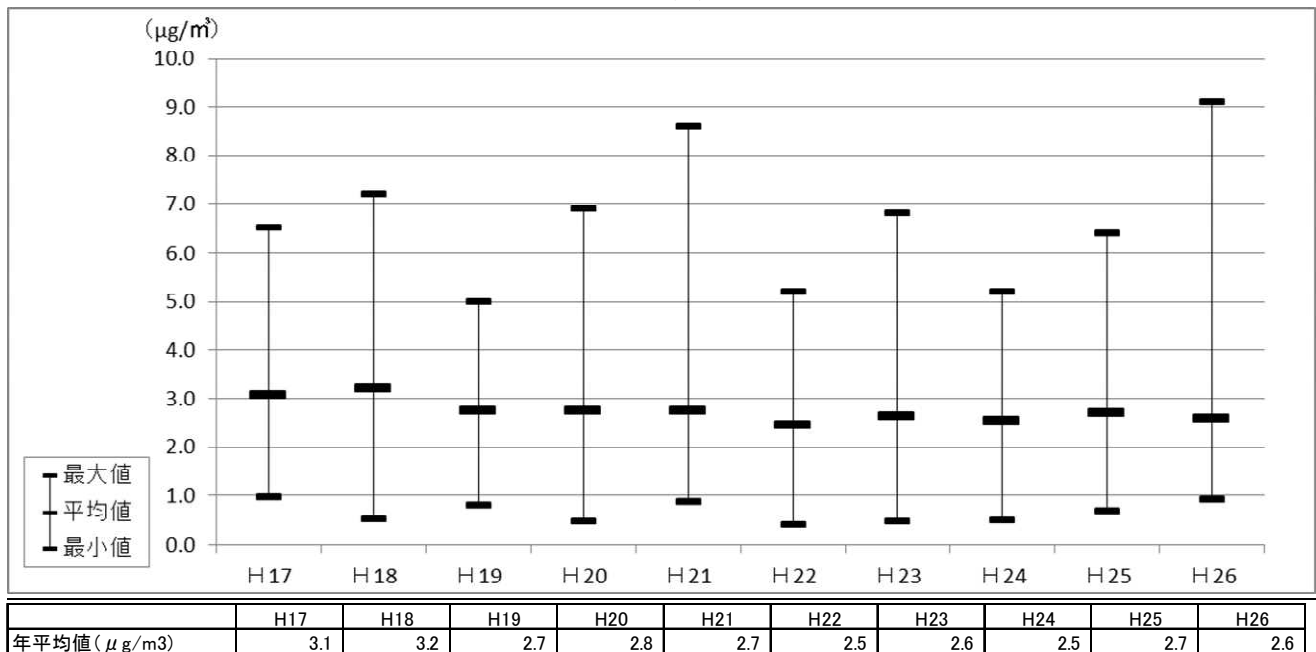
<ベリリウム及びその化合物：継続測定地点数 142>



<ベンゾ[a]ピレン：継続測定地点数 171>



＜ホルムアルデヒド：継続測定地点数 156＞



5. 今後の対応

平成 26 年度から改正処理基準に基づき化学物質排出移動量届出制度（PRTR）による排出量データ等を活用した効率的なモニタリングを実施している。ただし、改正処理基準の適用により測定地点数や各測定地点の測定項目数が大幅に変動する場合にあっては、平成 26 年度から 3 年を目途に測定地点や測定項目の見直しを行うことでよいとしている。

今後とも、PRTR 排出量データ及び有害大気汚染物質モニタリング調査結果等により、排出量や大気環境濃度等を継続的に検証・評価し、地方公共団体及び関係団体等との連携のもと、有害大気汚染物質対策を推進していくこととしている。

参考資料（目次）

- 参考資料 1 モニタリング調査結果（優先取組物質 21 物質）
- 参考資料 2 優先取組物質の大気環境中濃度分布